

<お知らせの履歴>

2025 年 8 月 31 日

9 月の祝日は、9 月 15 日（月）の「敬老の日」と、9 月 23 日（火）の「秋分の日」です。

「敬老の日」は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し長寿を祝う日」として制定され、

「秋分の日」は「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」ことを趣旨としている祝日です。

秋分の日をはさんだ 7 日間は、「秋のお彼岸」と呼ばれます。「彼岸入り」は 9 月 20 日、「お中日」と呼ばれる秋分の日をはさんで 9 月 26 日が「彼岸明け」となります。

「十五夜」とは 1 年で最も美しいとされている月を鑑賞しながら収穫などに感謝をする 9 月の行事の一つです。秋の真ん中である中秋は、空が澄みわたり最も月が美しく見えるため、「中秋の名月」と呼びお月見をするようになりました。

「十五夜」は旧暦の「8 月 15 日」。2025 年の場合は 9 月から少しずれて 10 月 6 日に行われます。月の周期の関係で、十五夜の日に確実に満月になるわけではありませんが、暦を優先して「十五夜」の日にお月見を楽しむことが多いようです。

9 月 20 日横浜市民防災センター及び沢渡中央公園にて

「楽しい」から「備える」へ。親しみやすく、楽しみながら防災意識を高められる体験型イベント【ぼうさい縁日!!】を開催。

非常食の試食、こども用防火服の着装体験、消防車の展示に加え、縁日ブースなど、こどもも大人も楽しめるコンテンツを用意。



10月1日より全国一斉に国勢調査が実施されます。

9 月 20 日（土）～9 月 30 日（火）

調査員が各世帯を訪問し調査書類を配布します。

防災意識を高められる
体験型イベント

2025 年 8 月 2 日

8 月は様々な行事やイベントが行われる月です。

皆様のお気に入りに出掛けられては如何ですか。

6 日、9 日は広島、長崎に原爆が投下された日です。

各地で平和記念式典が開かれます。

11 日は国民の祝日「山の日」です。

山に親しみ自然の恩恵に感謝する日です。

13 日から 16 日頃にかけてはお盆です。

先祖の霊を祀る行事が行われます。

各地で夏祭りや花火大会が開催され、多くの人で賑わいます。

7 日は立秋です。暦の上では秋の始まりとされ、暑さのピークを迎える時期でもあります。



太陽に向かって咲く花
向日葵

2025 年 7 月 6 日

21 日(月)は海の日です。海の日は毎年 7 月の第 3 月曜日に定められており海の恩恵に感謝するとともに海洋国家である日本の繁栄を願う日とされています。

「海の日」は明治天皇が明治 9 年に 50 日をかけて北海道・東北地方を巡幸された帰路に初めて軍艦以外の船舶である明治丸に乗船し横浜に安着した 7 月 20 日を記念して制定された祝日です。この日は長く「海の記念日」と呼ばれてきましたが、平成七年の法改正で翌年より「海の日」として祝日になりました。

26 日(土)、27 日(日)には須賀神社例大祭が執り行われます。

本年は須賀神社の神輿が再奉製されてちょうど 75 年に当たる年です。

26 日(土)、27 日(日)には第 49 回 神奈川大和阿波おどりが開催されます。たくさんの連が商店街を練り歩く関東屈指の阿波踊りです。踊り手たちが大和駅東側商店街を路上で演舞しながら移動する流し踊りや振興協会所属の選抜メンバーによる迫力ある総踊りが実施されます。笛や太鼓、三味線などの音色とともに披露されます。日中は大和駅東側プロムナードでキッチンカーや、縁日屋台がたくさん並び、おいしいグルメが味わえます。



「海の記念日」の由来となった明治丸 東京海洋大学 明治丸海事ミュージアムにて特別公開

2025 年 6 月 20 日

京都では 6 月半ば頃から水無月という和菓子が登場します。

三角形のういろうの上に煮小豆をのせて固めたもの。小豆の赤色には魔除けの力があると考えられていて 6 月 30 日の「夏越(なごし)の祓」に水無月を食べ、残り半年の無病息災を祈る風習があります。

水無月というのは暦上で 6 月のことを指しますが、なぜ和菓子にも同じ名前をつけたのか？その由来は、旧暦の 6 月 1 日に氷を食べることで、夏バテを予防するという風習から来ているそうです。6 月 1 日に氷を食べて夏バテ予防を祈願するのは、元々室町時代の宮中で行われていた行事で、この行事を行い暑気払いをしていたのですが、当時の庶民の方々は高級品である氷を入手することはできませんでした。代わりとして、氷に似たお菓子を食べることによって、夏バテ予防をすることになったそうです。

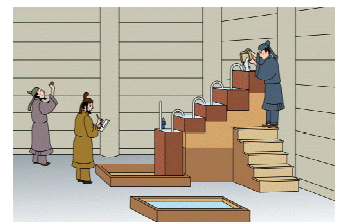


和菓子 水無月

2025 年 6 月 3 日

時の記念日 6 月 10 日は、日本の記念日の 1 つです。

日本で初めて時計(「漏刻」と呼ばれる水時計)による時の知らせが行われたことを記念して制定されました。記念日ですが国民の祝日に関する法律に規定された国民の祝日ではありません。時の記念日は 671 年天智天皇の時代に日本で初めて時を知らせたという日本書紀の記事を元に制定されたそうです。時計は「漏刻(ろうこく)」という水時計で昼間しか使えなかった日時計と違い、太陽の出ていない夜間も時間がわかるようになりました。大正時代に時間を守ることの大切さを教えるために定められたそうです。



水を使って時間を測る時計

2025 年 5 月 16 日

鏡沼（八幡平ドラゴンアイ）

山が雪解けを迎える 5 月下旬～6 月上旬にだけ「ドラゴンアイ」と呼ばれる絶景が見られます。

高山の山頂近くにある池で確認される自然現象です。

コバルトブルー色を放つ雪解け水の真ん中に、丸く残った雪が竜の目のように見えることからこう呼ばれています。

メジャーなものは御嶽山（三ノ池）と岩手県・秋田県にまたがる八幡平（鏡沼）の 2 例しか確認されておらず極めて希少な自然現象です。

御嶽山は往復 6 時間ほど登山をしなければ辿り着けない場所ですが、「八幡平ドラゴンアイ」は 八幡平山頂付近に位置する「鏡沼」で見ることができます。

冬の間に降り積もった雪が春になり周辺部と中心部が雪解けすることで中央部が浮力で持ち上がりドーナツ状になり、そこに日の光、空の色などの様々な条件が重なって龍の眼のような神秘的な景観が形成されます。



鏡沼（八幡平ドラゴンアイ）

2025 年 5 月 11 日

葵祭は京都三大祭の中でも一番古いもので上賀茂神社と下鴨神社の例祭。5 月 1 日の前儀とよばれる競馬足汰式、5 月 3 日の流鏝馬神事、5 月 4 日には斎王代女人列御禊神事など、さまざまな儀式が行われます。

5 月 15 日、平安装束をまとった 500 人以上の行列が京都御所から下鴨神社を経て上賀茂神社へと向かう「路頭の儀」がメインの見どころです。

「路頭の儀」は天皇の使者である勅使が下鴨、上賀茂の両神社に参向する道中。

近衛使（勅使代）をはじめ検非違使、内蔵使、山城使、牛車、風流傘、斎王代、馬 36 頭、牛 4 頭、500 余名の行列が京都御所建礼門前より出発し、王朝絵巻さながらに行われます。行列のなかで、ひときわ目を引く乗り物が「御所車」と呼ばれている牛車。薄紫色の藤の花の装飾を揺らしながら車輪を回してゆっくり進みます。

また、大きな傘の上に、牡丹や杜若などの花を飾り付けているのは風流傘。このほか、行列には、さまざまな道具類が登場します。



御所車と斎王代

2025 年 5 月 6 日

五月の第二日曜日は母の日です。

母の日にカーネーションを贈るという習慣はアメリカで一人の女性が母親の命日に教会で母が好きだった白いカーネーションを参列者に配ったことからきています。日本に母の日が伝わったのは明治時代の終わりごろとされ、キリスト教関係者の間でカーネーションを配る母の日のイベントがおこなわれるようになり森永製菓が 1937 年に



母の日プレゼント

「森永母の日大会」を開催したことがきっかけで 1947 年に 5 月の第 2 日曜日が母の日として制定されました。母親を失くしている人は白いカーネーション、母親が健在な人は赤いカーネーションを胸に飾っていましたが、やがて母親にカーネーションを贈る習慣に変化したといわれています。母の日のプレゼントは実用的なアイテムや母親のライフスタイルに合わせたギフトなど多様化しています。これからの母の日は、カーネーションだけにとどまらず、「母に感謝を伝える日」として、あなたらしい母の日の過ごし方を見つけてはいかがでしょうか。

2025 年 5 月 1 日

全国で 5 月に凧揚げが行われます。

相模原市新戸であげる 8 間四方（128 畳）の大凧は日本一大きな凧です。座間市大凧まつりは、100 人の引手で大凧を揚げるのが特徴です。

泉区では伝統文化である「相模凧」を揚げる凧揚げ会が開催されます。相模凧は端午の節句に子どもたちの健やかな成長と五穀豊穡を祈願して揚げられる泉区の伝統文化で 400 年の歴史があると伝えられています。

竹の骨組みに和紙を貼った正方形の凧で「ビーン」という

独特のうなりをあげるのが特徴です。大空に舞う大凧を是非お楽しみください。



凧揚げイベント

2025 年 4 月 25 日

今年も桜の季節がほぼ終わりました。あっという間に桜の花は散ってしまうため、美しいと言いますがやはり名残惜しいです。

しかし、桜のあとにりんごの花が見られます。

りんごの花は、桜の花と違った可愛さ、可憐さがあります。

りんごの産地ではりんごで花見をしています。

桜は葉っぱが出る前にピンクの花がまとまって咲くのに対し、

りんごの花は、新緑の葉っぱとともに蕾のピンク・花びらの白で枝を彩ります。品種によって花の色や大きさ咲き始めるタイミング、咲く数も違うので楽しいものです。



リンゴの花

＜桜とリンゴの花の違い＞

花の形は似てますが色や香り、そして一番目立った大きな違いは咲き方です。

葉と花がどちらが先に出るかの違いです。 桜：花→葉 リンゴ：葉→花

桜は満開まで花のみですから全体が桜色に包まれ後に葉桜になります。

リンゴは若葉が先に出てから白い花が咲くので満開時では白色と緑色の混合となります。

2025 年 4 月 17 日

関東では葉桜となっていますが、東北で次々と桜が開花しています。

青森では 4 月 17 日に開花発表され 4 月下旬に満開の予報です。

今年は開花が早くなっています。

北海道でも平年よりも 1 週間前後早い開花予想となっています。

全国で最も開花の遅い釧路では 5 月 7 日に開花を迎え、桜前線はゴールへと向かいます。

北陸や長野県、東北南部は今が見頃のピークで今週末にかけては各地でお花見を楽しめそうです。



五稜郭タワーからの景色

2025 年 3 月 24 日

24 日(月)、東京で桜の開花宣言がありました。

これから桜の開花が進み、桜の花見のシーズンもすぐそこまで近づいています。

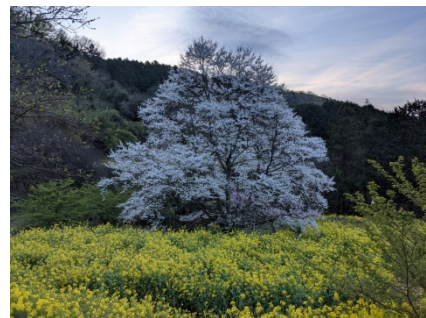
桜の開花時期は、品種によって異なります。

「桜の開花期はカンザクラ類に代表される早春に咲くものがあつたり、晩春に咲くものがあつたりと、案外長期にわたっています。

これから「咲き始め」「もうすぐ満開(七分咲き)」「満開」

「桜吹雪」と、いろんな桜の様子を楽しむことができます。

皆さんはどのタイミングがお好みですか？



秦野市蓑毛の薄墨桜

2025 年 3 月 8 日

2025 年のスギ花粉の飛散は過去最多で関東地方は昨年の約 2 倍との報告です。2 年前も多く飛散しましたが、それよりも多く、今まで軽症の方は重症化の恐れがあります。

昨夏の「高温・多照・少雨」により、スギの花粉がかなり大量にできている様です。スギ花粉は、3 月上旬には広い範囲でピークを迎え、ピークの期間は 10 日間から 1 か月ほど続く見込みです。

また、ヒノキ花粉のピークは 3 月下旬から 4 月上旬で、期間は 5 日間から 2 週間ほど続くそうです。

強い風が吹く日や急に暖くなる日には、花粉の飛散が極めて多くなります。

花粉情報や気象情報を確認して、万全な対策を心がけましょう。



2025 年 2 月 24 日

京都・下鴨神社では3月3日に「流し雛（ながしびな）」を行います。

境内に流れる御手洗（みたらし）川にひな人形を流し、子供たちの無病息災を祈る神事です。

雛壇に飾られるきらびやかな衣装に対して、流し雛は色紙などの簡素なものが用いられます。

流し雛とは、身のけがれを和紙でできた雛人形に託して水に流し、それを祓うという平安時代よりの習慣です。

流し雛の式典として、お雛様は十二単、お内裏様は衣冠の平安装束を身にまとい流し雛の儀を執り行います。



2025 年 2 月 15 日

天皇誕生日の祝日は、平成のあいだは12月23日でしたが、令和元年から今上天皇（第126代天皇徳仁）の誕生日である2月23日に移りました。

天皇の誕生日は「天長節」の名で祝われていましたが、

1948年（昭和23年）に「国民の祝日に関する法律」が制定されると、天長節は「天皇誕生日」という祝日に改められました。

明治天皇が1912年に崩御された後、「明治天皇の功績を世に伝えたい」という国民の声が上がり、1927年に明治天皇の誕生日11月3日は

「明治節」という祝日が制定されました。1948年の国民の祝日に関する法律制定により、明治節は廃止され、11月3日は「文化の日」になりました。

昭和天皇の誕生日は4月29日でした。現在、この日は「昭和の日」として祝日に制定されています。

令和二年二月二十三日		天皇誕生日 宴会の儀
一 汁	物	白味増
一作	身	松笠白飯
一 取	肴	鮮からすみ
一 焼	物	日の出唐餅
一 温	物	塩焼委託鯛
一 加	飯	茶碗蒸
一 温	酒	刺身保呂
干雅	鰻	干雅
鰻	打	鰻
紅錦	生	紅錦
赤玉	生	赤玉
姜子	生	姜子
流	草	流
節取	生	節取
鰻	生	鰻
花	生	花
山	生	山
紅	生	紅
焼	生	焼
子	生	子

2025 年 2 月 11 日

涅槃会（ねはんえ）2月15日はお釈迦さまが入滅された日です。

釈尊涅槃会（しゃくそんねはんえ）は、釈迦の誕生にちなむ仏性会、釈迦の悟りにちなむ成道会とともに三大法要として重んじられています。

各寺院では涅槃図を掲げ、釈迦の最後の説法を収めた「遺教経」を読誦します。

「釈迦涅槃図」とは、沙羅双樹（さらそうじゅ）の下でお釈迦様が入滅される情景を描いた図で、横臥した釈迦のまわりを、弟子や動物が取り囲んだ図です。

なかでも京都興福寺の吉山明兆作の涅槃図はその雄大さで知られています。



2025 年 2 月 9 日

建国記念日 2 月 11 日は、国家の基礎が確立したことを祝う日です。
日本では実際の建国日が明確ではないため建国神話を基に建国を祝う日として「建国記念の日」が定められました。



「建国をしのび、国を愛する心を養う日」として 1966（昭和 41）年に定められました。

2 月 11 日は初代天皇である『神武天皇』が即位された日です。

旧暦の 1 月 1 日は太陽暦に換算すると 2 月 11 日となります。

神武天皇とは、日本最古の歴史書である古事記や日本書紀に出てくる人物であり、古事記は神様や日本という国がどのように産まれたか等が記述されています。

建国記念の日のらしさを感じる過ごし方をしてみてはいかがでしょうか

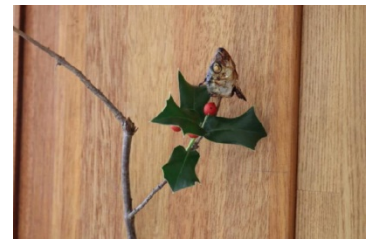
橿原(かしはら)神宮で行われる例祭「紀元祭」が 2 月 11 日（火・祝）に天皇陛下の御名代である勅使参向のもと斎行されます。

なぜ橿原神宮に勅使が派遣されるのかというと、日本の初代天皇である神武天皇が即位したのが橿原の地にあった大和橿原宮とされているためです。まさに日本という国ができた場所です。

2025 年 2 月 4 日

2 月 8 日の『事八日』は、物忌み（さまざまな日常行為を控える行為）の日と考えられ、この日は仕事を休む風習が各地で行われていました。

この日、針仕事を休み、折れた針などを豆腐などに刺して供養する針供養が行われるのもその一つです。



人々が仕事を休んで家に籠るのには理由があります。

それは事八日には「妖怪」が家にやってくるからなのです！

事八日の晩に「一つ目小僧」がやってくるとされています。

事八日になると人々は長い竿を用意し、その先に網カゴを吊るしました。

一つ目小僧は、たくさんの網の目に驚いて、その家に近づかなくなるそうです。

網カゴの他にも、戸口に櫛を立てかけたりすることで妖怪が寄り付かなくなるそうです。

ヒイラギやイワシの頭を吊るして追い払う例もあります。

いわしの頭を焼くときのけむい匂いと、ひいらぎのトゲが鬼から守ってくれるという風習です。

軒先に吊るして無病息災を願いましょう。

2025 年 1 月 31 日

天王森泉公園では、毎年節分祭が開催され、災厄や邪気を祓い、福を呼び込む

「豆まき行事」が行われます。今年の節分祭は 2025 年 2 月 2 日(日)に開催。

天王森泉公園は和泉川沿いに広がる水田、それを縁どる斜面緑地が昔懐かしい農村の面影を今に伝える泉区の南部。

台地の崖線から湧く豊富な湧水をいかして、流域には 20 に上る製糸場が営まれた歴史を持ちます。

一角に雑木林を主体とした面積約 35,000 m²の本公園があります。

正面には製糸場の本館が再生され、涸れることのない湧水が自慢です。

天王森泉館（旧清水製糸場本館）・湧水の森・見晴らしの丘・くわくわ森の 4 つのエリアに分かれています。



2025 年 1 月 18 日

1 月 25 日は鎌倉行事が盛り沢山です。

幕府の鬼門(北東)を鎮護する神として頼朝により、祀られた鎌倉荏柄天神社の「初天神」の縁日です。学問の神様として尊敬されている菅原道真に因んで始まった「筆供養」も執り行われます。

書家や歌人などをはじめとする参拝者が持ち寄った愛用の筆や鉛筆を焚きあげて供養することにより書道や字の上達を願います。

常楽寺(大船)でも 25 日に秘仏の木造文殊(もんじゅ)菩薩坐像が開帳され、文殊菩薩の供養をする祭り「文殊祭」が行われます。

この日以外は開かれない秘仏である文殊菩薩像は右手に如意という道具、左手に経巻を持った鎌倉時代の作ですが頭部は開山大覚禅師が宋より伝えたものだといわれています。



2024 年 12 月 2 日

横浜・山下公園にて 2024 年 12 月 5 日(木)から 2025 年 3 月 2 日(日)の期間

「Winter Wonder Park Yokohama2024」が開催されます。

異国情緒あふれる山下公園の風景と共に、光と音楽が融合した幻想的な空間に設置されるイベントです。家族や友人同士で 1 日中楽しめる多彩なアクティビティが満載です。

横浜の冬が光と音楽で輝くこの特別なイベントを楽しんでみてはいかがでしょうか。

横浜・みなとみらい各エリアをブルーを基調とした LED ライトの鮮やかな光で包み込みます。イルミネーションと多彩なイベントを楽しめるみなとみらいで思い出作りをしてみてもいかがでしょうか。



2024 年 11 月 20 日

横浜市南区真金町に鎮座する金刀比羅大鷲神社では 2024 年 11 月 29 日(金)の「三の酉」で令和六年例大祭「酉の市」を開催します。

縁起ものがたくさんついた縁起熊手が名物で新年の開運招福、商売繁盛を願うお祭りとして親しまれています。

「三の酉まである年は火事や災いが多い」という言い伝えがあり、三の酉の年限定の江戸火消しの纏(まとい)に見立てた「火除守り」が人気です。



2024 年 11 月 5 日

【Live! 横浜 2024 とは・・・】

横浜を「音楽のまち」としてブランディングしていくため、みなとみらい21地区を中心とした都心臨海部の音楽施設・民間イベントや音楽団体、横浜市などが一体となって創り上げる新しいスタイルのフェスティバルです。大規模イベントをはじめ、音楽、ダンス、アニメなど多彩なジャンルを取り込み、8つの街なかステージを中心に30か所を超えるステージを一斉展開します。大人も子どもも楽しめる、まち全体がライブで躍動する4日間をぜひ楽しんで見ませんか。

会期：11月9日（土）、10日（日）、16日（土）、17日（日）

会場：みなとみらい21地区を中心とした都心臨海部



2024 年 10 月 19 日

【江の島シーキャンドル湘南キャンドルライトアップ】

いよいよ秋らしくなりましたね！

今年も江の島で秋を感じられるイベント

「湘南 CANDLE」が始まりますよ。

江の島シーキャンドルを中心に、約 10,000 基のキャンドルが灯ります。そこには、あたたかな光に包まれた幻想的な世界が広がっていますよ。ぜひ暖かくして、この期間だけの江の島を楽しみに行ってみませんか？

期間：2024 年 10 月 20 日（日）～11 月 4 日（月）

会場：江の島サムエル・コッキング苑



2024 年 9 月 21 日

「2024 ふじさわ江の島花火大会」

開催日：2024 年 10 月 19 日（土）

打上時間：午後 6 時～午後 6 時 30 分（30 分間）

場所：片瀬海岸西浜

打上発数：約 1800 発（最大号数 4 号玉）

ふじさわ江の島花火大会は、湘南のシンボル、江の島をバックに片瀬海岸西浜から打ち上げられる湘南の秋の風物詩です。

多彩な花火で構成され湘南海岸の夜空を美しく彩り、ロマンチックな秋の夜を演出します。



2024 年 9 月 17 日

「第 17 回小出川彼岸花まつり」

2024 年 9 月 21 日(土)、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町を流れる
小出川沿いで「第 17 回小出川彼岸花まつり」が開催されます。

9 月下旬から 10 月上旬にかけて、青少年広場（寒川町大蔵）、
大黒橋（藤沢市遠藤）間の小出川沿いのコース（3 キロメートル）に、
彼岸花が咲き誇ります。天気の良い日には、遠くに富士山や
丹沢山系を眺めながら散策を楽しむことができます。

【花のみどころ】

小出川沿い 大黒橋～寒川町青少年広場の約 3k



2024 年 9 月 10 日

＜鶴岡八幡宮の例大祭＞

16 日の流鏝馬神事中止

15 日朝、流鏝馬練習中に 20 代男性が落馬し意識不明の重体となり
鶴岡八幡宮の流鏝馬は中止となりました。

毎年 9 月 14 日から 16 日までの 3 日間にわたり執り行われます。
献茶会、献華会、武道大会、日本舞踊などの神賑行事が続々と
奉納され、多くの参拝者で賑わいます。



【9 月 15 日（日）】10 時 00 分～：例大祭

神社本庁より幣帛を奉る献幣使を迎え、宮司以下神職、巫女、八乙女が奉仕し、大勢の参列者を迎えて
厳かに執り行われます。神前には鈴虫も供えられ、秋らしい虫の音が響きます。

【9 月 16 日（月祝）】13 時 00 分～：流鏝馬神事

境内の流鏝馬馬場にて、鎌倉時代さながらの狩装束に身を包んだ射手が、馬で駆け抜けながら 3 つの的
を射抜く勇壮な神事で、源頼朝公の時代より約 800 年の伝統を受け継いでいます。

2024 年 8 月 15 日

横浜スパークリングトワイライト

ヨコハマのミナトを彩る 5 分間の花火の打ち上げ！

週末を中心に通年で花火と夜景を楽しめます。

横浜港を彩る花火をぜひ楽しんでみてはいかがでしょうか？

会場：横浜港（新港ふ頭、大さん橋他）

2024 年 8/31、9/14・21、10/12・26、11/2・9・16、12/7・24 横浜スパークリングトワイライト

開催時間：2024 年 8 月、9 月の開催 20:00～20:05。

2024 年 10 月～12 月の開催 19:00～19:05

打ち上げ数 約 150 発



2024 年 7 月 30 日

鶴岡八幡宮では、2024 年 8 月 6 日～9 日の 4 日間「ぼんぼり祭」が行われます。

鎌倉市内や鶴岡八幡宮にゆかりのある著名人が書いた書画約 400 点がぼんぼりに仕立てられ、参道に並びます。夕刻になると明かりが灯り、幻想的な光景が広がる魅力溢れるお祭りです。

ぼんぼり祭の期間中には、「夏越祭」「立秋祭」「実朝祭」の 3 つの神事が執り行われます。

【夏越祭】8 月 6 日 15 時～（立秋の前日）

夏の邪気を祓う神事が源氏池のほとりで行われた後、参道で「茅の輪くぐり」を行い、健康を祈願します。舞殿では巫女により「夏越の舞」が奉納されます。

【立秋祭】8 月 7 日 17 時～（立秋の日）

夏の無事を感謝し、実りの秋の訪れを奉告する昭和 25 年より始められたお祭りです。

ご神前には神域で育まれた鈴虫が供えられます。

【実朝祭】8 月 9 日 10 時～（場所：白旗神社）

源実朝公の誕生日に執り行うお祭りで、昭和 17 年より始められました。

実朝公の遺徳をしのぶとともに、文芸に優れた実朝公にちなみ、例年、短歌会が催されます。



<鶴岡八幡宮・夏越祭>

2024 年 7 月 27 日

「関東三大阿波踊り」の一つ「神奈川大和阿波おどり」が

7 月 27 日、28 日に開催されます。

地元連のほか、全国から多くの連が参加し、

鉦や太鼓の音が鳴り響く中、色鮮やかな衣装をまとった踊り手たちが熱い演舞を披露します。

28 日 16 時からの「総踊り」は 圧倒的な迫力で観客を魅了するものです。

観ても踊っても楽しめる大和の夏の風物詩です。



<令和 6 年大和阿波踊り>

2024 年 7 月 20 日

日本各地には独自の伝統と文化が息づく祭りが数多く存在します。

暑い夏は日本の祭りのエネルギーが爆発する季節。

7 月から日本各地で沢山の夏祭りが開催されます。

見るだけではもったいない!! 参加して地元の人々と

一緒に声を出して盛り上がるのは如何でしょうか。



<令和 5 年須賀神社例大祭>